



# UP-LE

## Vol.27

1996年7月19日

学校法人コア学園

飯田コンピュータ専門学校

〒395 長野県飯田市松尾明7591

☎0265-22-5111・FAX0265-22-5100

## 最先端と衰退の間



新入生数の減少問題はここまできると深刻である。校内での雰囲気にも活気がほしい。気持ちの持ち方の問題かもしれないが、一人一人が良い意味合いでの意思表示（表現）をしていくべきだと思う。

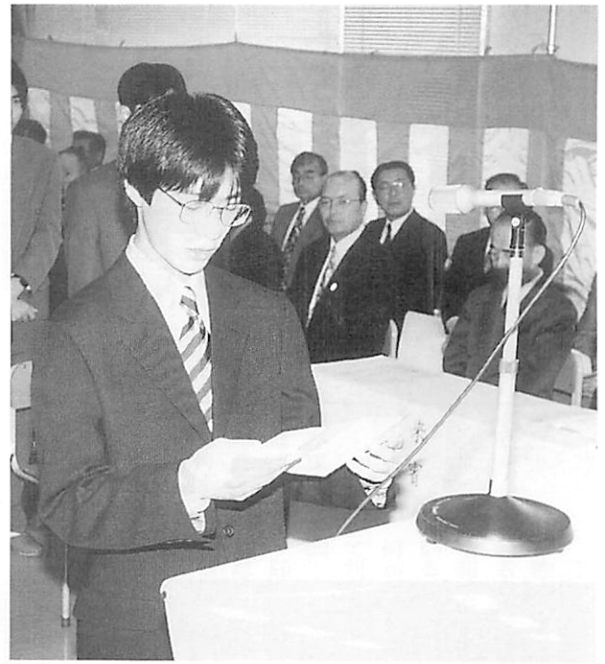
### 南向きの大きな窓

あれは確か今年の正月二日の信濃毎日新聞朝刊であったと思うが、一面左側に「会社人（かいしゃびと）」という囲みが目に入った。そこに綴られていたのは、いわゆるリストラによる転職から新しい事業へ挑戦し、起業していくある管理職についての紹介であった。たまたま目にした記事ではあったが、それがこの地方出身の方であることもあって、身近に感じ興味と関心を持って読んだ。こうしてこの「会社人」の連載が始まったと記憶している。以来、様々なテーマが取り上げられて来た。希望退職優遇制度、社内ベンチャーを募る企業、目標管理制度の導入、人事考課・賃金体系の再整備、コンピュータによる効率化の追求等々、業績回復、経営改善・向上のための幾つもの試みが紹介され、更には労働運動や労使関係の問題、男女雇用機会均等の問題、女性や高齢者または障害者の雇用・労働問題などについても、多くの実例にスポットが当てられ編集されており、多くの読者が関心をもって読まれたに違いないと思う。従来日本の年功序列式終身雇用制が大きく転換し、雇用環境の変化と共に、新しくまた難しい社会、経済の仕組みが出現しつつあることを、現実として突きつけられて来た。この連載も既に七十余回とな

会社人

学校長 榎原英勝

り、今日では「働きがい」をメインテーマとした連載に繋がって来ている。会社優先、利益至上主義の企業社会から、個性とか人間性が尊重され、働く喜びを実現出来る社会について語られ、そしてそれは企業も労働者も共に、更には広く社会全体で目指し、実現していく必要が強調されている。明確な職業観、人生観そして人生設計を有し、それを企業活動の中で実現する、即ち自己実現を計っていく行程が、その営みがそれぞれに求められる時代となった。もう何年も前のことであるが、当校のカリキュラムに「総合講座（特別講義）」というのがあって、そこでは例えばこの地方で成功している企業経営者など、様々な方の話しを伺うのだが、ある社長の講義の中で、「就職」というのは「就社」ではない、という話をされた。あの時学生諸君はどのように理解してくれただろうかと、首を傾げないでもないが、今日、正にそこを認識することが問われる時であると思う。学校では、豊かな人間性と積極的にチャレンジする精神をもって、自らものを作り出す（生み出す）喜びを体得して貰いたいと希望し、指導して行きたいと思っている。そうした前向きな考えを持ち、そこに専門的な資格を一つでも身に付けて卒業してくれたら正に「鬼に金棒」と、期待するところ大である。



### 今年やりたいこと

一年 女子

今年やりたいことって急に言われてもあまりうかんてこない。今年の抱負というより、とりあえずいろいろな検定に挑戦して、受かることが今、目の前の目標。  
今まだ後期からの進む方向も就職も具体的に決まっていけないけど、いろいろな意味でいい方向へ進むように今からいろいろな事に興味を持ってやっていきたい。

高校の時のように一つ打ち込んでいる物は今はないからこれからここで勉強していくうちにみつけれたらいいと思う。それに今比較的時間に余裕があるから、もっとうまく時間を使っていけたらと思う。  
あまりたくさん書けない…。楽しい一年だったらいいかな。いい意味で、充実した生活を送りたい。

ここに書いたこと。書いただけにならないように、努力していきたい。

# 今年度の抱負

## それぞれの抱負

一年 組長

入学してから、一ヶ月以上はすぎました。学校生活は、なれてきたのではないかと思います。

そこで、今年度の抱負は特別ありませんがあげるとすると、一、あいさつ だれにでもあいさつできるようにする。  
一、学校は遊ぶ所ではなく、学ぶ所である。資格を取るためと、もう少し勉強をやりたいと思うことで学校に通っていると思

うので、しっかりと、勉強を学ぶべきだと思う。

一、CAIについて。CAIは適当な時間ではなく、一応ちゃんとした授業なので、何でも良いので、僕も休んだことがよくちよくあったので、言えることではないが、休まず、しっかりとやるべきだと思う。少し思ったことは、CAIの変わりに授業と呼べるような授業を行なっても良いのではないかと思います。以上の事をしっかりと、心にしまい、一人でも多くの人が良い会社に行けば、入る生徒も多くなるのではないかと思います。



# 地域メディア振



## メディアは今

### マルチメディア

一年 男子

コンピュータの事は習い始めたばかりで、せっかくの特別講座を開いても、まだ理解していない、出来ない所がある。

一応自分なりに分かった事は「農家でもコンピュータを使うと楽で、早くできる」という事だ。しかし私としては、その事は、あまり好意を持っていない。それは、なんでもかんでも、コンピュータを使えばいいという事がよくないと思う。たしかに

楽になり、早く出来るかもしれませんが。そのようになると、人間としての役割がなくなってしまう。すべてが機械で、無言で働く時代になってしまうかもしれない。

しかし、今日の生活で、ずっと負担がなくなったのは、このコンピュータがあったからだと思う。私なりにこれからのマルチメディアは、人間としての条件を考えて作ってほしいと思う。



## 歓迎会

一年 男子

四月二十七日、ゴールデン・ウィークの頭に、一年生の歓迎会ということで、オークラボウ

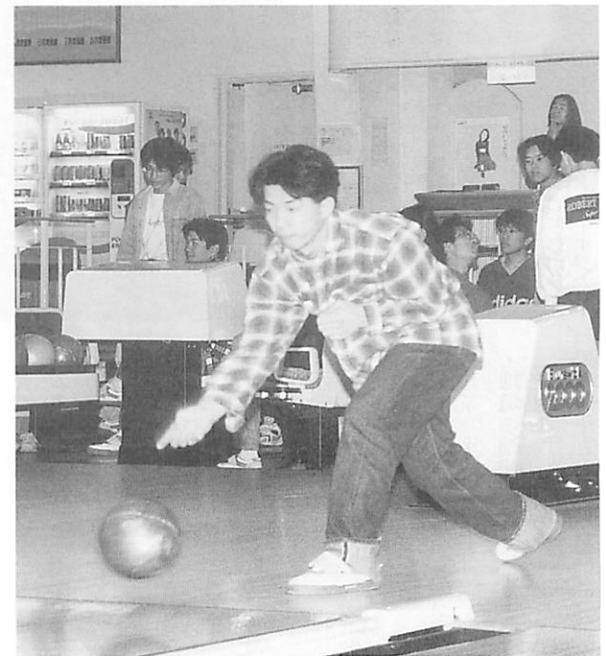
ルでボーリングを行いました。ゲームは二人一組で、一レーンに、一年生と二年生が一緒にやりました。

ゲームは、僕が見たところでは、ピンからキリまで、それぞれハイスコアをたたき出しているチームや、上手にガーターへ転がしている人などがいて、やってい

ても楽しかったし、自分のチームは、ピンからキリまであるうちのキリの方で、二ゲーム目後半で、やっと調子が上がってきたけど、すでに時遅しで、最悪のスコアになってしまいました。

結果発表は学校で行なわれまして。優勝したのは、二年生のチームでした。結果はどうあれ参加者全員が楽しんでくれたと思うし、一年生にとっては、友達を作るきっかけにもなる貴重な歓迎会になったと思う。

# ボーリング大会(入学生歓迎会)



## 一年生歓迎会

二年 男子

四月二十七日にオークラボールで行われた一年生歓迎会(ボーリング大会)の感想を書きたいと思う。

人のやっているのを見ていると、上手い人もいればそこそこの人もいて、やはり人それぞれだと思う。賞品目当てで頑張ったつもりが、思わぬしっぺ返りで惨憺たる結果で終わってしまった。ただボールを投げピンを倒すだけのことなのになかなか思

い通りに行かない今日この頃。何故?と思いつながら投げたら案の定ボールは右に反れていく。挙げ句の果てにガーター。隣のレーンではストライクの連発。何故こんなに違うんだ! (心の叫び) 結果としてはとても楽しめたとと思うし、一年との交流も良くてきたと思う。このような歓迎会をたくさんやれば、一年との交流も沢山できるのでは? P・S 飲み会を催してくれればさらに良いと思った。

## その度を感じつつ

二年

マルチメディアとインターネットである。校内で催される特別講座の度に思うのだが、話ばかり飛躍しているものと感じてしまいます。

今のマルチメディアに対して、特別な関心が無いという人にとってはなおさらのことだと思っております。

授業内でのカリキュラムの中、マルチメディアやインターネットに関するものを、大まかに学んでいます。しかし、どなたにも判りやすい解説ができるわ

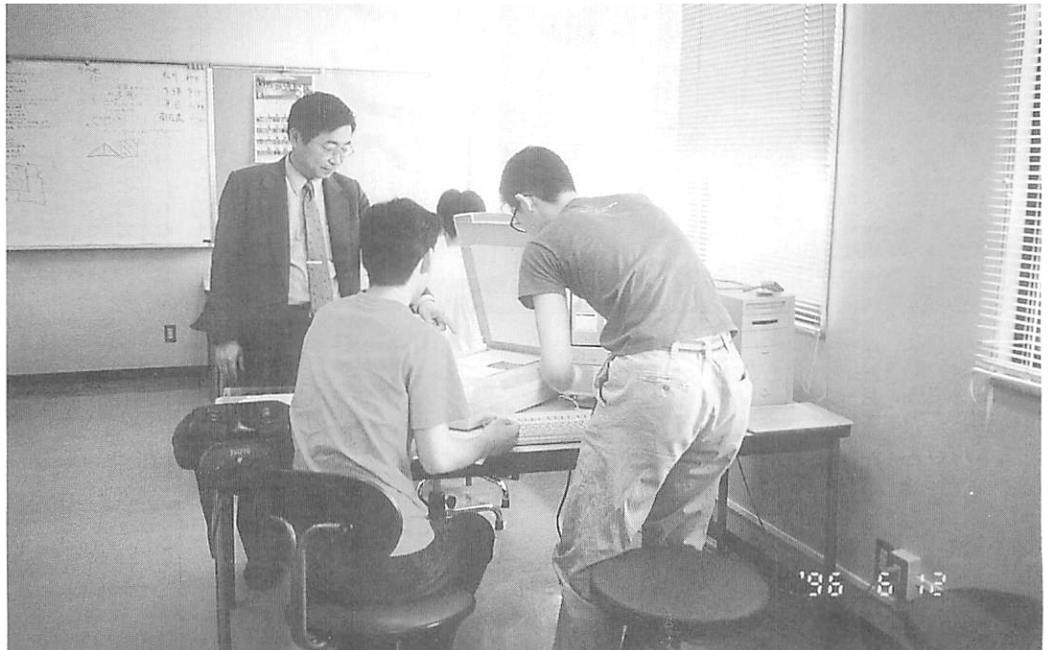
けではありません。自分でもわからないんですけどね。話していただいているときは、うなずいていても以前にもどこかで聞いた覚えのあるものだとも思えるし、第一僕たちはずっと聞き手ですよ。

個人的な意見を言わせてもらうと、時間的には数時間の規模で、内容的には生徒一人一人からの意見をその場で率直に言うようなものを望んでいます。講座については回数的に少なくして、時間的にも内容的にも入り込みやすいものにしてほしいと思います。丸一日費やしても「判りやすい講座ならば」というところでしょうか。

# マルチメディア社会



# メディアサロン オープン



皆さんお気づきのように、今年の春に実習室の端末機が新しくなりました。また二階東側の教室に「メディアサロン」の表示がされて、マックの新鋭機器類が設置されましたし、奥のコンピュータマシン室には、サーバーも入っています。

マルチメディアとかインター

ネットという言葉が毎日のように新聞やテレビに登場するようになったのは、昨年の後半からでしょうか。とにかく大は何十億円もかけた国の事業から、小は個人レベルの取り組みまで、様々なレベルでマルチメディアやインターネットを用いた試みがなされています。

この背景は、急速な技術の進歩により、コンピュータが高機能で低価格なものになったことはもちろんですが、これらが道路や通信網と同じように、社会を豊かに、また人々に利便をもたらす社会インフラの一種になる可能性を秘めたものであることに気づき始めたせいかもしれません。

皆さんお気づきのように、今年の春に実習室の端末機が新しくなりました。また二階東側の教室に「メディアサロン」の表示がされて、マックの新鋭機器類が設置されましたし、奥のコンピュータマシン室には、サーバーも入っています。

ここで、当校でもこれらに対するカリキュラムを充実させると同時に、このために校内に設置した新鋭機器類をもって、地域の情報化のお手伝いをして行うとする試み、それがメディアサロン事業の根本的な発想です。

活動内容としては、

- ・マルチメディアコースの新設による教育内容の充実
- ・産・官・学によるインターネット等の共同研究
- ・地域の情報化全般に対する支援活動

等を骨子としています。

具体的な活動としては、当面

- ・飯伊市町村との共同研究によるインターネットのホームページ制作とその発信
- ・地元の企業、諸団体等との同様の共同研究体制
- ・電子メール、ネットニュース等によるネットワーク事業

等を段階的に推進して行く予定です。

また、これらを円滑に推進するためにメディアサロンの施設、設備を広く地域の方々に開放したり、研究会を定期的に開催したりしますので、様々な方が出入りしたりすることになります。

メディアサロン活動を中心にして推進していただく立場にある地域情報化研究所の松沢参事は、

「メディアサロンという皆さんはきつと二階東側の教室をイメージするでしょう。もちろんそれは目に見える具体的なメディアサロンの姿には違いありませんが、ほんの一部に過ぎません。飯田市や文部省の後押しを得たうえ、地域の方々、先生方、そしてもちろん生徒諸君の理解と協力を得て様々な活動を展開する予定です。今後のメディアサロン活動に大いに期待してください。」と語っています。

マルチな  
時代に向けて

二年 北原 匠

この学校にマルチメディアコースが開設されて、もうずいぶん時間が過ぎたような気がする。僕たちマルチメディアコースは、マルチな事をマルチにこなすマルチな人間になりそれをメディアにのせて、これからの時代を担って行こうと思っていました。しかし、その考え方はあまかったのです。

簡単にマルチといったのがそもそも間違いでマルチと言うのは、全てのものを意味していたのです。三ヶ月たった今、僕は、最先端をまのあたりにしたショックと、頭につめる大量のデータから、一年くらいの月日を感じています。でも、その変わりに自分でも考えられない程の充実感をあげています。

今インターネットのホームページ作りをしています。テレビや雑誌では、簡単に言われていますが、これがまたおもしろい。また皆さんも暇があったらマルチメディアサロンへ遊びに来てください。



### 地域情報化研究所 松沢参事インタビュー

聞き手 自治会広報出版委員長  
平沢 龍洋

平沢 ーメディアサロンの性格を一言で言うと、どうなりますか。

参事 ーそうですね、「サロン」の名のとおり、関心のある方が集い、学びあい、啓発しあう場所ということにでもなるのではうか。

平沢 ー当面インターネットの研究から入ると伺っていますが…。

参事 ーはい。

インターネットは現在、各方面から注目を浴びていますが、だからインターネットだということではなく、この飯伊という地域の特性を考えた時、地域活性化の切り札になる可能性を秘めたものかも知れないと思うからでもあるのです。

平沢 ーとりあえず、市町村のホームページ制作をするのですか。

参事 ーはい。

五月に飯伊の一八市町村の役場にインターネット共同研究の推進委員の選任をいただきました。

現在、これらの推進委員の方々のご協力をいただきながら、各市町村のホームページの制作を行っています。

平沢 ー市町村との共同作業といったところでですか。

参事 ーそのとおりです。当サロンでは産・官・学の共同研究体制をめざしています。

とりあえずは官・学の共同制が緒についたといったところですが、やがて産、すなわち地元企業や団体の方々にもお声掛けして、この共同研究の輪に加わっていただきたいと思っています。

平沢 ー市町村の反応はいかがですか。

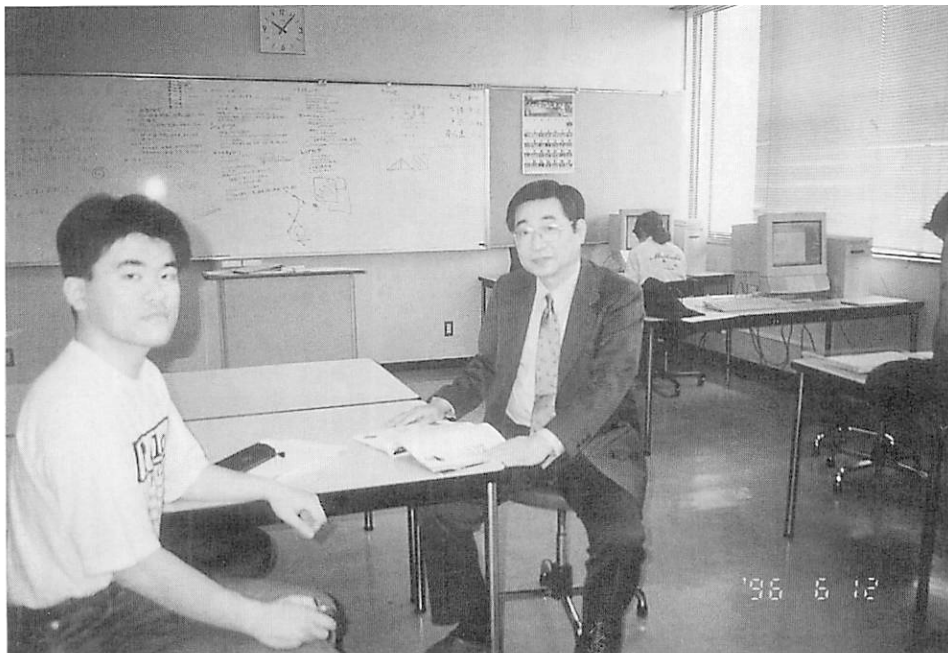
参事 ーお蔭様で、どちらにも積極的な取り組みをいただいています。

もちろん皆が初めてのことで、やや戸惑ってみえる市町村もありますが、現実には自分たちが制作したホームページが発信されはじめますと、一層強い興味を示していただけるのではないかと期待しております。

平沢 ーわれわれ生徒は、どのように参加できるのでしょうか。

参事 ー市町村のホームページの制作をすでにマルチメディアコースのカリキュラムの中に組み込んでありますので、日々の授業を通して既に参加していただいているといえます。

さらには意義深いものになるのではないのでしょうか。  
平沢 ー本日はありがとうございました。



## メディアサロンシステム機器

マルチメディアアクリエーター用パソコンとして、

・ Macintosh

PM9500 一台

・ Macintosh

PM8500 五台

を設置し、

その他に、マルチメディアタイプ制作する為の周辺機器として、

・ ビデオ入出力機器

TARGA 2000

・ 編集用ビデオデッキ

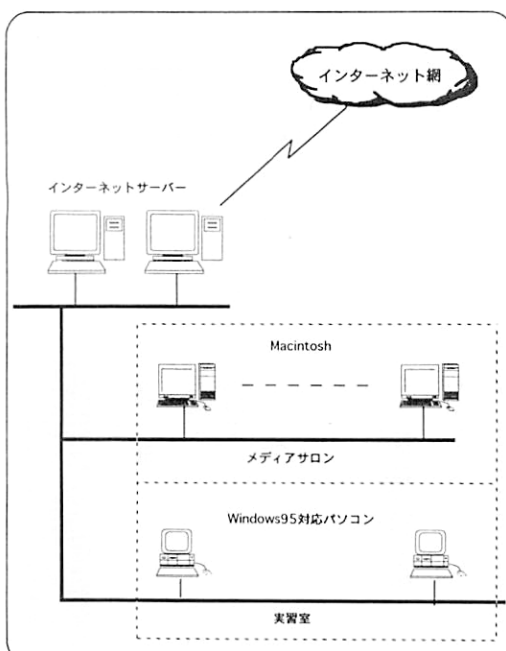
SONY EVO19650

・ 昇華型カラープリンタ

・ CD-ROMライター

を設置しました。

また、コンピュータグラフィックスからビデオ編集まで、様々な



インターネットをより多くの学生が体験できるように、Windows 95 対応のパソコン

な編集が可能なソフトウェアを用意し、マルチメディアアクリエーターがより良い作品を制作できる環境を整えました。  
さらに、作成した作品を全世界に公開し、新しいコミュニケーションの実験を行えるように、インターネットとの接続用サーバーを用意しました。このサーバーをWWWサーバー、メールサーバーとし、メディアサロンで試作した作品を発表するだけでなく、「インターネットという通信インフラをこの飯田地方でどのように活用していくか」研究を行います。

# 新任の先生からの言葉

## 自分を探す

今村由香



TVに毎日映しだされる事件や情報を見て、いろいろに、何が正しくて何が間違っているのか果ては人間というものが解らなくなって、頭が混乱し、投げやりな気分になる。そして、気が付くと、いつもそこには不安定で自信のない自分があるのだ。自分の支えとなるようなものが無いために、色々な価値観に打ちのめされてしまうのだ。

今はただ、色々な経験―例えば旅をしたり、人と出会ったり、音楽を聴いたり、本を読んだり―をして、もっと色々な事を吸収しなければと焦りにも似た衝動に駆けられている。経験の乏しさからくる自信無さは痛感しているし、経験が自分の視野を広め、自分の支えにもなるような気がするからだ。思うばかりで行動に移せないのが、私の最大の欠点なのだが。

とにかく、自分に自信を持ち、主張を持つことが必要だと思う。そして、その自信や主張を裏付けるためにも、また、その自信や主張が他人を傷つけたり、独り善がりになったりしないためにも、他人の言葉に耳を傾け、色々な事を吸収しなければと思

う。更に、自分の生き方は、他人のせいにすることなく、自分で責任をとらなければと今更ながら思っている。これらの考えを保留したくなる時もあるが、学生時代が一番ものを吸収でき、深く考えることができる時だと思ふ。色々な経験をし、自分自身(自信)を探してみては？

宮内邦昭



はじめまして、皆さん。今年度からC言語演習を担当することになった宮内です。

皆さんはどのような目的をもってこの学校を選ばれたのでしょうか。このキャンパスに通い何をしようと考えていますか？

学業だけが本分ではないですね。アルバイトしたり、友人と旅行にでかけたり、経験できることは数多くあります。

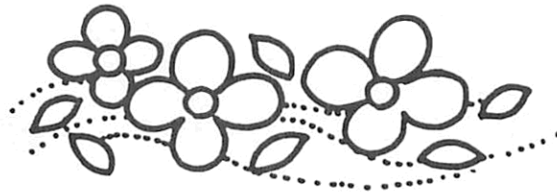
たまには時間を無駄に費やすのもいいでしょう。いろいろな

ろな物事にチャレンジを繰り返す中からきつと何かが見えてくるはずですよ。

蹉跌を来すことも多々あるでしょうし、順風満帆たる時もまた多いでしょう。学生という自分上の制約も多少あるでしょうが、皆さんの未来は、もう既に皆さん自身の手に委ねられています。「学ぶ」ことは学業だけに留まらず、身の回りのすべてに当てはまりますね。

毎日「学ぶ」ことばかりです。そして「学ぶ」ことは能動的なことなのです。つまり「教えてもらう」ことではなく自ら進んで、情報収集し、取捨選択し、

興味のあるものへは積極的にチャレンジしてください。皆さんのその能動的な姿こそが、いままさに求められていることなのです。そしてその力がこのキャンパスで学ぶことへの原動力となることを願っています。



## 年内公開特別講座全体計画

＜日程＞	＜講師＞	＜講義内容＞
○7月3日(水)	信州大学工学部 大下真二郎 教授	情報通信技術の進展
○9月4日(水)	信州大学工業部 土屋良明 教授	テーマ未定
○10月9日(水)	多摩大学学長代行 井上一郎 教授	テーマ未定
○11月13日(水)	名古屋工業大学 石井直宏 教授	テーマ未定
○12月4日(水)	信州大学工学部 松本光功 教授	テーマ未定

## 各種合格者

### 簿記

▲三級▼  
▲四級▼

田中美妃  
池野由紀  
米山賢児  
岡沼利枝

### 編集後記

今年度の第一番目のお仕事である。毎度の事ながら精神的にもくたびれてしまいます。

今回の活動へのとりかかりは決して遅くはなかったのですが、要領が悪いって事でしょう。

「誰かこの役かわってくれよ」と、いうわけにもいきませんし……。

ほとんど嫌々やっているのだけど、いつものと変わらないようすが、今回もなんとかできあがったかな？(ホエホエ)

広報・出版委員長

